

皆生温泉のこれからを伝えるメディア「カイケプレス」

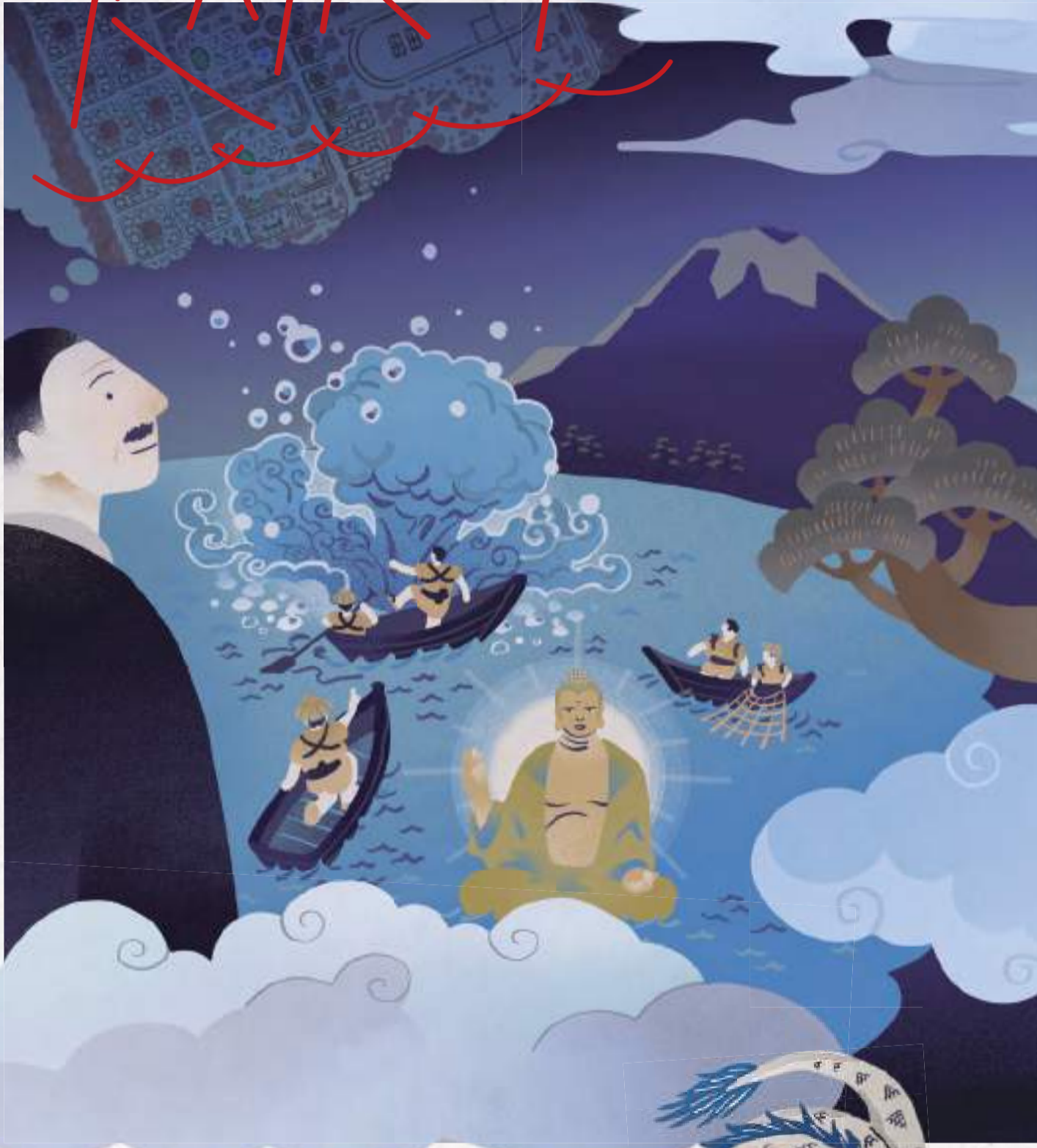
KAIKE PRESS

2024 28 December

特集

皆生温泉の歴史を知ろう

二〇二四年の最後に、皆生温泉の歴史を総まとめ。今年、米子市有形文化財指定の「皆生温泉市街地設計図」を現代と重ね、年表と共に、皆生温泉のはじまり、激動の時代を経て変わりゆく温泉街・海岸線の浸蝕等を解説。



古くから皆生を見守る3大神

A 湯薬師さん

復活・再生を意味する“よみがえり”伝説のシンボル

皆生温泉には「その昔、出雲の稲佐の浜から泡となって流れ出た魂たちが、海岸に流れ着き、新しい身体と心がよみがえり、皆、生まれ変わったことから、当地を“皆生(かいけ)”と呼ぶようになった」という伝説がある。まさに「魂が流れ着いた」というヨミガエリ伝説をなぞらえたかのように、難破船から皆生の海岸に流れ着いたとされる薬師如来。その歴史は長く、大正13年に「無病息災」と「長寿」を願って源泉近くに薬師堂が建立された。温泉の薬師如来ということで、地元では「湯薬師さん」として親しまれ、皆生温泉は海が荒れるたびに、源泉が被害を受けてきたが、湯薬師さんを祀ることで平安を守ってきたと伝えられている。幾度の移転遷座を経て、現在は『OUランド・OUホテル』館内で拝むことができる。どの角度から見ても目が合うので、何か語りかけられているような不思議な感覚になる。



B 皆生温泉八大龍神

新たに甦った本殿 日本の真ん中の龍神様

龍神様とは、地球を守護してくれる存在で、万物を自由に動き回り天候や潮の流れ、地熱などの流れを操れる「水」を司る神様。皆生の龍神様を祀る大本教によると、東は群馬赤城小沼の龍神様、東は佐賀の瑞雲大龍神様、そして日本の真ん中に位置するのが「皆生八大龍神」だという。龍神様のはじまりは、昭和初期。当時皆生に住んでいた白石家当主の夢枕に龍神様が立ち「我れを世に出せよ出して呉れたら皆生温泉のみでなく日本中では元より世界中に働いてやるぞ 早く世に出せ海岸に石宮を造て 神として朝夕の給仕をせよ」(※原文ママ)と景勝の地に記るよう告げた。月日は流れ終戦の前年、戦況悪化で本土への空襲が始まった昭和19



年、かたちだけの石宮だったが、地主の「皆生八大竜王」として世に出てもらうことができた。平成2年頃、現在の「皆生八大龍神」となられたという。そして辰(龍)年の本年、皆生漁火展望台横の神殿が一新、11月25日に鎮座祭が執り行われ、遷座年という重要な節目となった。遷座は、神様の御力が清新に若々しく蘇る“蘇生再誕”の重要な意味合いを持つ。ヨミガエリの地で、干支のパワーも重なる貴重な年に、新たに蘇った龍神様に強力な開運を祈ってみては。
※出典:大本八大竜王開基記録

C 皆生温泉神社

皆生温泉街の一角にひっそり佇む長寿の神様

皆生温泉の発展に尽力した有本松太郎が「皆生温泉に日本人らしい心のよりどころを」という願いを込めて昭和2年に建てたとされる神社。松の木立に守られ、ひっそりとした佇まい。御祭神の一神であるオオクニヌシノミコトは、医療・薬(くすし)、そして縁結びの神様。いつからか長寿の神様として、長寿・家庭円満を祈願しに人々が集まるようになった。境内には稲荷社も祀られており、赤い鳥居が立ち並んでいる。こちらは五穀豊穡・商いの神様と言われており、社殿には違いであるたぐさんの狐の像が置かれている。基本的に無人なので、御守りなどグッズが欲しい場合は、観光センターに立ち寄ろう。

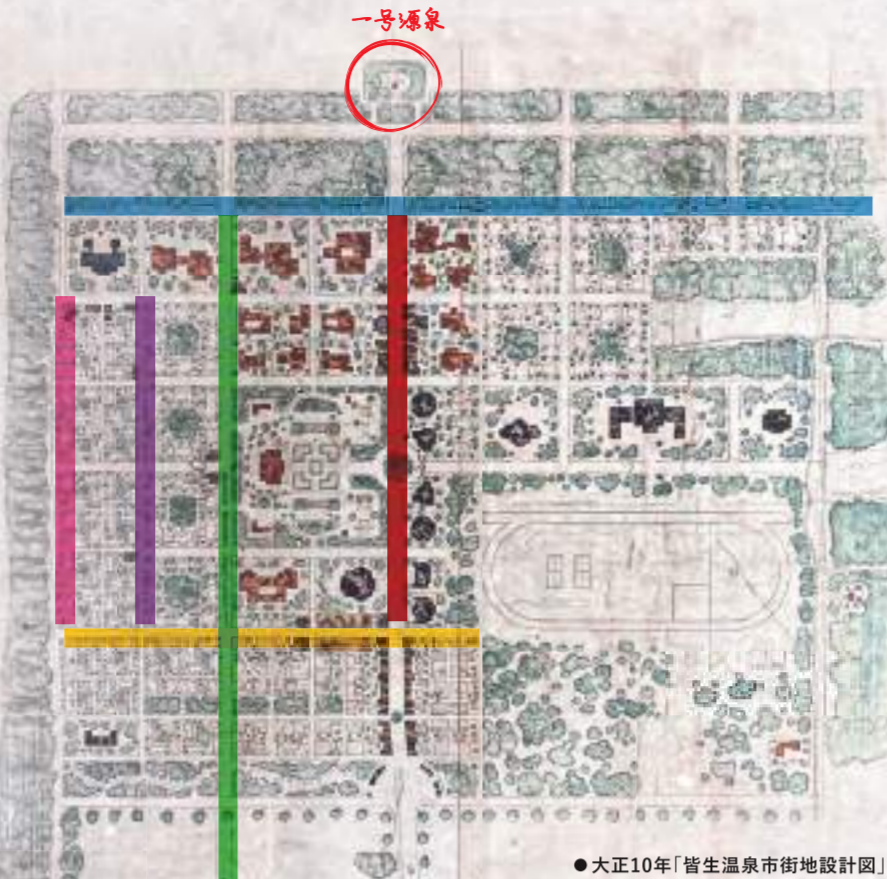


Kaike History MAP

皆生ヒストリーマップ

100年前の 壮大な都市計画

今年5月に米子市の有形文化財に指定された「皆生温泉市街地設計図」。明治から昭和にかけての造園家・都市計画家で、明治神宮外苑などの設計でも知られる日本の公園整備の第一人者・折下吉延が、大正10年(1921年)に作製。正方形に区画整備されており、京都の町並みを模して設計されたとも言われている。街区の北側に温泉旅館や病院、東側に学校や図書館、運動場などの公的施設を配置。南側には2本の電線道が描かれ、このうち1本は「米子電線軌道」として実現した。この設計図は、当時メインストリートだった三条通りを中心に描かれている。現在の皆生を見てみると、交通の中心は四条通りに移っているものの、当時の区画がほぼ同じように再現されている。この設計図ができた頃、まだ手付かずの松林が広がっていた。このような壮大な一大観光都市を誰が想像できたのだろうか。偉大なリーダー・有本松太郎はもとより、地域住民や行政の力も見逃すことはできない。皆生温泉土地株式会社設立当時の株主名簿には、有本松太郎をはじめ100人を超える地元の出資者が名を連ねている。また村有地の売却においても地元を発展させるという大きな意志が感じられる。地域一丸となって進められた開発。有本松太郎の皆生温泉街への想い、そのイメージが100年以上経った現代に受け継がれ、また新たに生まれ、時空を超えて今に息づいている。



●大正10年「皆生温泉市街地設計図」



有本松太郎



●昭和初期「皆生温泉湯略図」

「松を切るな」「温泉を守れ」



昭和になり世界恐慌、たたら終焉、さらには海岸浸蝕により温泉施設が倒壊。皆生温泉は危機に瀕していた。資金的に行き詰まっていた当時の会社の事業を引き継ぎ、新源泉の掘削や娯楽センターの建設などで復活の道をひらいた人物こそ、皆生温泉の育ての親・坂内義雄だ。皆生温泉の再建のため増資した額は、当時のお金で30万円。現在の8億円近い金額。皆生の温泉地としてのポテンシャルを評価し、常々「松を切るな」「温泉を守れ」と話していたという。



坂内義雄

現在の皆生温泉MAP



競馬場はこの辺り
付近には競馬場のために「馬温泉」もつけられていた

水族館は昭和40年に閉館
チンチン電車駅舎
公会堂辺りまでつながっていた!

八十八の子伝説

米子の地名の起源とされる言い伝えのひとつ「八十八の子伝説」にちなみ、ひとつの物語がある。平成12年、とある夫婦が「菊乃家」に訪れた。不妊で悩んでいると聞き、当時の支配人・佐藤さんは「この地は88歳で子が生まれた伝説があり、さらに皆生温泉は長寿にあやかれる、めでたい土地柄であること」を伝え、源泉を飲むようにすすめて「諦めたらいかん」と動ましたという。その後、夫婦は何年も待ち望んでいた子宝に恵まれ、感激した。お礼の手紙には、「菊乃家」に訪れてからちょうど1年の同じ月に出産したことが記されている。嘘のような本当の話がここ皆生にはある。



皆生温泉最古の暖簾

昭和2年創業の「松月」。当時は、昭和4年に始まる世界的な大不況の時代で、多くの旅館が廃業、芸者も半減する大変な時代だった。目の前が海ということで「眺望第一内湯旅館」と銘打ち、松越しに月を眺めながら潮騒をきく風雅な宿だった。その反面、浸蝕の危険もはらんでおり、軒の下まで海が洗う時もあり、建物の流出の危機が度々繰り返されていた。二度の世界大戦、浸蝕の危機など幾度の試練を乗り越え、今なお皆生温泉最古の暖簾を守り続けている。



皆生温泉最古の岩風呂

「海潮園」には、大正年間に行われた皆生温泉に現存する最古の岩風呂がある。古くは、現在龍神様を祀る「大本教」の教祖・出口仁三郎が経典を口述筆記したと言われ、新しくは2人の直木賞作家、野坂昭如と阿部牧郎が作品の構想を練ったとされる。現在は、当時のまま露天風呂としてリニューアルし「浜の湯」に併設されている。文人に愛された名湯で、文豪気分を味わう。

取材協力: 皆生温泉観光(株) 代表取締役社長・坂内和孝さん / 皆生温泉観光(株) 社長室長・角田昭生さん / 松月 女将・福元芳子さん / 海潮園 当主・中島太郎さん / 菊乃家 前支配人・佐藤基海さん
参考文献: 皆生温泉観光株式会社 五十年のあゆみ・100年のあゆみ / ふるさと歴史散歩 10 皆生温泉 / 伯耆ふるさと伝承プロジェクト

皆生温泉 歴史年表

1573~1592年(天正年間)
皆生の由来となる「海池」があったとされる

本能寺の変
1582年
(天正10年)

1867年(慶応3年)
「皆生村」に統一

大政奉還
1867年
(慶応3年)

1868年~(明治初年)
皆生温泉の発見

明治維新
1868~1869年
(明治元~22年)

1900年(明治33年)
皆生温泉の誕生

日露戦争勃発
1904年
(明治37年)

皆生温泉土地株式会社
現:皆生温泉観光株式会社
(OUランド)
1920年(大正9年)創業
設立1921年(大正10年)

1911年(明治44年) 温泉小屋「村湯」開業

1920年(大正9年)
皆生温泉の祖・有本松太郎による
皆生温泉の開業

満寿屋
(前乃家・菊乃)
1923年(大正12年)
創業

1923年(大正12年)
公衆浴場「公園温泉」開業(5月) ※現:観光センター
海岸浸蝕により1号源泉タンク倒壊(11月)

関東大震災
1923年
(大正12年)

1925年(大正14年) ※現:公会堂~皆生間
チンチン電車「米子電線軌道」開通

松月
1927年(昭和2年)
創業

たたら製鉄の
終焉

1929年(昭和4年)
第一回「皆生競馬」開催

世界恐慌
1929年
(昭和4年)

1932年(昭和7年)
大津波による海岸浸蝕

1934年(昭和9年)
皆生温泉育ての親・坂内義雄が開業に携わる

1935年(昭和10年)
激浪により1号源泉が水没

1938年(昭和13年)
皆生電車 サヨナラ運転

日中戦争勃発
1937年
(昭和12年)

1938年(昭和13年)
療養所「姫路陸軍病院
皆生分院」開院

第二次世界大戦
1939~1945年
(昭和14~20年)

1947年(昭和22~29年)
戦後初の護岸工事 防砂堤防14基

旅館三井
1947年(昭和22年)
創業

1957年(昭和32年) 水族館オープン

1959年(昭和34年)
皆生温泉ヘルスランド開業

鶴の家別荘
(皆生つるや)
1961年(昭和36年)
創業

1960年(昭和35年) 皆生海岸遊歩道完成

1961年(昭和36年)
津波による防波堤決壊

海潮園
1962年(昭和37年)
創業

皆生グランド
ホテル(天水・華水亭)
1967年(昭和42年)
創業

1971~1985年(昭和46~60年)
離岸防潮堤工事

1976年(昭和51年)
観光客数・年間約80万人を超える

山陽新幹線開通
1972年
(昭和47年)

1978年(昭和53年)
20年ぶりに海水浴場再開

1981年(昭和56年)
第一回皆生トライアスロン開幕

1987年(昭和62年)
四条通り改修工事完了

2020年(令和2年)
白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース完成

地名の由来

日野川の河口、弓ヶ浜半島の付け根に位置する皆生温泉。「皆生」という地名は、天正年間この地にあった「海池(かいけ)」と呼ばれる大きな池に由来する。日野川が運ぶ土砂によって海になりたり池になりたりする場所だったので「海池」と名前がついたという。江戸期の藩の文書には「皆生村」「海池村」の両方の呼び名が記されている。

皆生温泉のはじまり

明治初年頃、漁師が偶然にも発見した海に噴き出す泡。それは、地元で潤いをもたらす「お宝」だった。その昔、皆生海岸はイワシやアジの漁場として、とても盛んだったこともあり、最初に発見したのは浜辺で漁をしていた地元の漁師だった。泡が噴き出しているのを偶然見つけたそう。当時は源泉が海底にあった。その後、たたら製鉄による大量の土砂が日野川から流れ出した。土砂によって皆生の海岸線が沖合にのびていったことで、明治33年、浅瀬に温泉が湧き出した。



葉師堂

皆生海岸の浸蝕

大正年間に入ると日野川上流をはじめ、各地で盛んに行われていた「たたら製鉄」が終わりを告げ、日野川からの土砂の流出が止まり、日野川によって運ばれていた土砂は皆生海岸への砂浜を止め、海岸の浸蝕の兆しが見えはじめてきた。大正12年11月、皆生海岸は約20メートルも浸蝕し、1号源泉タンク及び機械室が倒壊して約1ヶ月、給湯はストップした。この頃は秋から冬にかけて3、40メートル浸蝕しても、迎春までには復旧しているということが毎年繰り返されていた。

- 昭和7年2月 大津波は砂浜を浸蝕して旅館前まで迫り、源泉機械室を倒壊。
- 昭和8年10月 一号源泉が危機に瀕したが、住民の懸命な努力により事なきを得た。
- 昭和10年9月 激浪によって一号源泉が水没、湯溜タンクを倒壊
- 昭和13年9月 新一号源泉そばの葉師堂が波浪によって倒壊
- 昭和13年11月 新一号源泉の西が350メートルに達して、約60メートル砂浜が後退して、源泉は波間に孤立する。
- 昭和15年9月 大津波による浸蝕で海岸線の旅館が孤立する。
- 昭和16年12月 東の浜が約30メートル浸蝕、旅館2軒のコンクリート崩れを流失。
- 昭和17年2月 大津波によって旅館の一部を流失。
- 昭和19年10月 海岸へ流木が漂着し、新一号湯溜タンクを倒壊。
- 昭和19年12月 二号タンクが倒壊。
- 昭和20年12月 給湯タンクが倒壊、温泉給湯機能が完全に停止
- 昭和21年2月 四号源泉が倒壊
- 昭和30年9月 旅館の離れ座敷が流失の危機に陥る
- 昭和36年2月 突如襲った津波によって白層裏の防潮堤が崩壊する
- 昭和46年1月 暴風雨によって津波が防潮堤を越え、皆生温泉ヘルスランドまで海水が押し寄せてくる。



昭和7年冬より始まった浸蝕に対し、防潮工事が度々施工されていたが、部分的であったため、いずれも冬の激浪によって流失してその効果は見られなかった。本格的な効果が見られたのは、現在の離岸堤が完成してから。大正12年にピークに後退し始めた海岸線。その後退は護岸ができるまで300メートルに及んでいた。海岸沖合100メートルに海岸線に平行に離岸堤を設置することにより、長年に渡る自然との死闘に終止符が打たれた。消波ブロックにより形成された砂州「トンボロ」がいくつかのアーチを描く独特な景観は、先人たちが長きに渡って自然の脅威にあらがった軌跡の証と言える。



EVENT

皆生温泉神社 年越し

長寿の神様と新年を迎えよう
年越しカウントダウン!

12月31日(火)



当日は、御守り・破魔矢・熊手の販売のほか、おみくじ、振る舞い酒、焚き火など楽しいイベント盛りだくさん。新年を迎えるカウントダウンも見逃さない!

13:30～ 0859-34-2888 (皆生温泉旅館組合)

とんどさん

1月13日(祝)



8:30～ 点火9:00～
0859-34-2888 (皆生温泉旅館組合)

カイケラボ通信

Kaike
Lab
NEWS

みんなで作る社会実験

「ぐるぐるかいけ」報告レポ

「海を開く」を合言葉に、ぐるぐると歩いて楽しむ「うごくまち」を体現する社会実験「ぐるぐるかいけ」の小規模イベントが11月3日に開催されました。当日は飲食をはじめ子どもでも楽しめる体験型ワークショップなど移動式屋台スタイルで多くの出店が並び、ビーチスポーツ・音楽アウトドアなど体験できるコンテンツを提供。取組むことで公園や道路をはじめ、それぞれの会場で「人がいる風景」を作ることができました。まちの回遊性という点においても、ある程度達成できたのではないかと印象です。一方で、経済性という観点、出店いただいた店舗の売り上げについては芳しくなかったため、アルコール提供などの明確なコンセプトがない限りは、やはりお昼時を中心に開



催することで地元の方々に楽しんでいただけたのと思いました。今回、新たな試みとして「ぐるぐる」から連想される「まわる」ということから着想を得て、DJブースを設置するなど新たな企画にも挑戦しました。騒音値(dB)を計測しながら、近隣にも配慮し、クレームなどもなかったことは、今後の取り組みの幅を広げる一手になったと感じています。来場者の方にも楽しんでいただけたことはよかったです。ビーチスポーツについては、体験される方が少なく、ひとつ課題となりました。「ぐるぐるかいけ」の持続可能なカタチを模索しつつ、日常的に皆生温泉の風景をどのように作っていくのか、これからも地域の方々と一緒に考えていきたいと思います。次回のアイデア会議、ぜひ「やくちかいけ」への参加お待ちしています!



新春恒例「寒中水泳」

事前参加申込は1月6日まで

毎年恒例の皆生温泉海遊ビーチ・冬の風物詩「寒中水泳」イベントが2025年1月11日開催される。前回からさらにパワーアップし、仮装での参加大歓迎! 見学者を含め全員参加可能なお楽しみ抽選会とおしるご無料振る舞いがあり、老若男女みんなで楽しめる。皆生温泉の美しい砂浜を舞台に、真冬の日本海へ飛び込むこのイベントは、心も体も鍛え、一年の健康祈願を行う。また、成人を迎える新成人の門出を祝い、2025年が最良の年であることを祈念する特別な機会。当日は、安全祈願の祈禱や水難事故防止のためライフセーバーが常駐するので安心。砂浜には即席露天風呂が設置されるので、温泉に浸かりながら日本海を臨める贅沢なひと時を過ごせる。今年はオリジナリティあふれる衣装で、家族や気の合う仲間と一緒に楽しんでみませんか?

受付9:15～ ※天候により若干の時間変更の場合あり
0859-37-2311(米子市観光協会)

WINTER SWIMMING in KAIKE 2025

1月11日(土)



参加資格 以下のすべての条件を満たす者

- 1 小学生以上～75歳未満で寒中水泳に耐えられる者 ※年齢基準: イベント当日年齢
- 2 小学生・中学生・高校生は、保護者の同意を得ている者
- 3 申込規約を遵守できる者



参加料 ひとり 500円

詳細・申込は米子観光ナビHP▲

※参加記念品(皆生温泉海遊ビーチオリジナルタオル)・保険料おしるご振る舞いが含まれています。

※右記の対象の方は参加無料 ●本年、20歳を迎える方(平成16年4月2日から平成17年4月1日までに生まれた方) ●小学生、中学生、高校生の方

定員 200名(先着)

※定員になり次第、メチ(定員に満たない場合のみ、当日参加可能) ※参加希望の方は、事前人数把握のため、出来れば事前申込 ※見学者はどなたでも可能(無料)。見学だけの場合は申込不要

皆生温泉 お宿の名物

華水亭のごだし

しじみ入り 1080円

冬の味覚を彩る
オリジナル本格だし

華水亭・天水の料理長が監修した特製だし。地元の名産・あご(トビウオ)特有の旨みとコクを活かした甘くやさしい味わいが特長。アジやサバ・椎茸・昆布など素材を独自の割合で配合。煮物、吸い物、茶碗蒸し、ラーメンにおすすめ。『天水』売店でも販売中。

0859-33-0001



OUホテルの純米吟醸いなたひめ

「文吾酒」850円

山陰にゆかりのある
落語家限定パッケージ

山陰で活動する落語家「桂文吾」六代目襲名記念で作られた数量限定の純米吟醸。その米で醸した酒は「谷川の清流のように澄み渡り、食す肴はその流れに浮かぶように喉元を通り過ぎる」と言われた幻の酒米「強力」と大山の湧水を使用。ふくらみのある果実系の香りと米の旨みを感じられる。

0859-31-3333 売店 7:00～21:00

